

今週のことば

「これはわたしの契約の血です」

(出エジプト記12章21節～27節)

「それは主への過越のいけにえだ。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、私たちの家々を救ってくださったのだ。」(12:27)

(マルコの福音書14章10節～25節)

「みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、彼らに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしのからだです。』また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはみなその杯から飲んだ。イエスは彼らに言われた。『これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。』(14:22～24)

今日のメッセージ要旨

◎プロテスタント教会では二つの聖礼典が執り行われます。その一つが洗礼式であり、他の一つは聖餐式です。聖餐式の意義について改めて教えられましょう。

◎パウロは教会のことを、「神がご自身の血をもって買い取られた神の教会」(使徒20:28)と語っており、日本基督教団信仰告白では「恵みにより召された者の集ひなり」と告白されています。私たちは「その血による贖い、罪の赦しを受けている」(エペソ1:7、テトス2:14、ペテロ①1:19)のです。これはかつてイスラエルの民がエジプトの地で奴隷であったところから解放された出来事に雛形を見いだすのです。

◎出エジプト記12章以下を見ますと、エジプト全土に降された災い(長子の死)がイスラエルの家には及ばなかったので、奴隷の地エジプトから脱出することが出来たのです。そのためには神様の命令により、イスラエルの民が小羊を屠り、その血を家の鴨居と柱に塗っていたからで、その血を見て災いが通り過ぎたのです。そして後々の人々が出エジプトの出来事を想起するために「過ぎ越しの祭り」と「種入れぬパンの祭り」を記念として守るように定められたのです。

◎主イエス様は弟子たちと最後の晩餐をされたのです。その席上でパンを取り、感謝をささげて後、「取りなさい。これはわたしのからだです」と与えられ、杯を取り、感謝をささげて後、「これはわたしの契約の血です。多くの人のために流されるものです」と葡萄酒を与えられ、弟子たちはその杯から飲んだのです。そして、「わたしを覚えてこれを行いなさい」(ルカ22:19、コリント①11:24, 25)と命じられたのです。

◎日本基督教団信仰告白では「教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝え、バプテスマと主の晩餐との聖礼典を執り行ひ、愛の業に励みつつ、主の再び来たりたもふを待ち望む。」と告白されています。かつてイスラエルの民がエジプトを脱出する前に、羊を屠り、肉を食べ、鴨居に塗られた血を見てエジプトに下された災いから免れ、神様のみ業により束縛の地から解放されたのです。その出来事を記念して祝われるのが過ぎ越しの祭りであり、その祭りの最中にイエス様は十字架に架かり屠られてくださったのです。感謝しましょう。

◎「契約の血」一出エジプト記24:8、ゼカリヤ書9:11、マタイの福音書26:28、マルコの福音書14:24、ヘブル人への手紙9:20、10:29、13:20。